

第9回
伊万里地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成29年5月26日
佐賀県教育委員会

目次

	頁
資料 1	新高校設置準備委員会設置要領・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
資料 2	伊万里地区新高校設置準備委員会委員構成・・・・・・・・ 3
資料 3	伊万里地区新高校設置に向けた検討体制・・・・・・・・ 4
資料 4	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第 1 次)新高校設置準備委員会報告まとめ・・・・・・・・ 5
資料 5	平成 2 7 年度及び 2 8 年度の検討内容報告について・・・・・・・・ 7
資料 6	平成 2 9 年度以降のスケジュール(案)について・・・・・・・・ 16
資料 7	新高校の校名の検討について・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
資料 8	新高校の校章、校歌、制服の検討について・・・・・・・・ 29

新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関する事
 - 二 新高校の施設・設備に関する事
 - 三 新高校への円滑な移行に関する事
 - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要する事

(組織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
 - 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
 - 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

(補足)

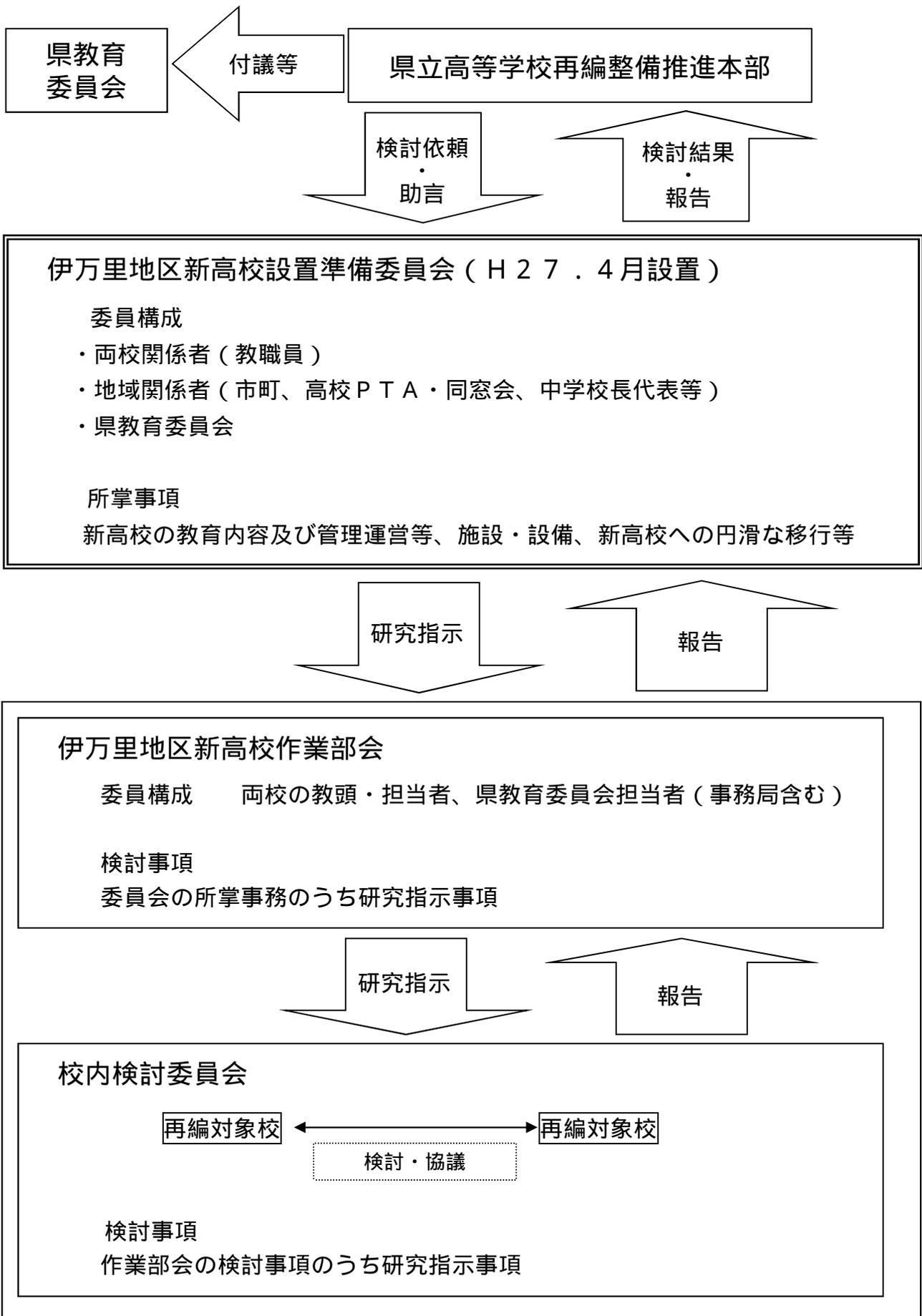
- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委員会名	再編等対象校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校

資料2 伊万里地区新高校設置準備委員会委員構成【平成29年度】

No.	所属・職名	氏名	備考
1	伊万里商業高等学校 校長	熊谷 正実	委員長・学校関係者
2	伊万里農林高等学校 校長	青木 久生	副委員長・学校関係者
3	伊万里商業高等学校 教頭	大川内弘紀	学校関係者
4	伊万里農林高等学校 教頭	外戸口良文	
5	伊万里市教育長	森 哲也	伊万里市関係者
6	伊万里市政策経営部長	佐藤 弘康	
7	伊万里商業高等学校 同窓会代表	森 日出生	地元関係者
8	伊万里農林高等学校 同窓会代表	岩永 康則	
9	伊万里商業高等学校 PTA代表	山崎 高広	
10	伊万里農林高等学校 PTA代表	池田 和幸	
11	伊万里市立伊万里中学校 校長	朝長 省吾	中学校関係者
12	教育総務課長	熊崎 康春	県教委関係者
13	教育振興課長	五反田 進	
14	教職員課長	青木 勝彦	
15	学校教育課長	大井手 広毅	
16	教育情報化支援室長	碓 浩一	
17	保健体育課長	牛島 徹	
18	県立高校再編整備推進室 室長	原 和弘	
19	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰	
事務局	伊万里商業高等学校教諭	坂口 哲也	
	伊万里商業高等学校教諭	松尾 武	
	伊万里農林高等学校 指導教諭	松尾 信寿	
	伊万里農林高等学校教諭	藤 一郎	
	県立高校再編整備推進室 企画主幹	山下 秀司	
	県立高校再編整備推進室 企画主査	杉本 耕一郎	



新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）
新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

回	地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
第8回	伊万里地区	平成29年 1月26日(木)	学校関係委員 4人
	・ 伊万里農林高校	10時30分～11時55分	地域関係委員 7人
	・ 伊万里商業高校	伊万里商業高校 簿記実習室	県教育委員会関係委員 8人
第10回	杵島地区	平成29年 3月16日(木)	学校関係委員 4人
	・ 白石高校	10時～11時	地域関係委員 12人
	・ 杵島商業高校	白石高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 7人
	鹿島地区	平成29年 3月28日(火)	学校関係委員 4人
	・ 鹿島高校	15時～15時45分	地域関係委員 10人
	・ 鹿島実業高校	鹿島高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8人
第8回	嬉野地区	平成29年 3月22日(水)	学校関係委員 4人
	・ 塩田工業高校	10時55分～11時45分	地域関係委員 14人
	・ 嬉野高校	塩田工業高校 同窓会館	県教育委員会関係委員 8人

2 主な意見等

回	地区	主な意見等
第8回	伊万里地区	<p>新高校の校地について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「新高校の開校時は校舎制とし、その後校舎制を見直し、校地が1つになるとなれば伊万里商業高校の校地とする。」という内容を、伊万里商業高校同窓会（橘岡会）と伊万里商業高校PTAとの連名で提案したい。 校舎制の案は、開校後の見直しが前提ではない。 今ある実習田や施設を活用し、生かしていくということで、今の時点では校舎制がベストだという捉え方をしていた。このことに異論はない。 伊万里市民に向けた校地に関する説明会を開催していただきたい。 校地については、地元の皆様と学校関係者等で構成される新高校設置準備委員会で協議することとしている。当該委員会はオープンな形で協議を行っており、その内容はホームページで公開している。よって、説明会を行うことは考えていない。 伊万里市としては、これまで専門性の確保のため、両校単独ということを探索してきた。今回の校舎制の案はこのことに配慮してもらっている。 新学科（農業系）の生徒の配置について、ビジネスマナーや礼儀作法を1年次に商業校舎で指導できることは大きなメリットがあると思う。 「校舎制及び新学科（6次産業化対応）の1年次は商業校舎、2・3年次は農林校舎に配置」（事務局案）で委員承認。

回	地区	主な意見等
第 10 回	杵島地区	<p>新高校の校舎名について （特に意見なし）</p> <p>現白石高等学校を「普通科キャンパス」、現杵島商業高等学校を「商業科キャンパス」とすることを了承。</p> <p>学科・コース名の変更について （特に意見なし）</p> <p>新高校の商業科（小学科）のコース名を、「ビジネスコース」から「マーケティングコース」に変更することを了承。</p> <p>「杵島地区新高校再編整備実施計画（案）」について （特に意見なし）</p> <p>「杵島地区新高校再編整備実施計画（案）」について委員了承。</p>
	鹿島地区	<p>「鹿島地区新高校再編整備実施計画」について</p> <p>「鹿島地区新高校再編整備実施計画」の内容について報告。</p> <p>次年度スケジュールについて</p> <p>来年度配布予定のリーフレットについては、中学3年生だけでなく、1，2年生にも配布していただきたい。</p>
	嬉野地区	<p>「嬉野地区新高校再編整備実施計画（案）」について</p> <p>「嬉野地区新高校再編整備実施計画（案）」の内容について報告。</p>

平成27年度及び28年度の検討状況

佐賀県教育委員会は、平成26年12月に「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）」を策定し、伊万里農林高等学校及び伊万里商業高等学校の再編を決定した。

計画では、平成31年度に現在の伊万里農林高等学校（1学年120人（3学級規模））及び伊万里商業高等学校（1学年120人（3学級規模））を再編して、200人（5学級規模）とし、学科については現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討することとした。

これを踏まえ、伊万里地区新高校の具体的な在り方等を検討するために、平成27年4月に伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校、両高等学校の同窓会・PTA、地元中学校、伊万里市の関係者や教育長並びに佐賀県教育委員会の関係者からなる「伊万里地区新高校設置準備委員会」を立ち上げ、魅力ある新高校づくりを目指した検討を行ってきた。

「伊万里地区新高校設置準備委員会」での検討経過

平成27年度から28年度にかけて、「伊万里地区新高校設置準備委員会」を8回開催し、新高校設置に向けた検討を行ってきた。また、この委員会は公開とし、その都度、県のホームページ等を通じて、開催案内や協議事項概要等の報告を行い、県民への情報提供に努めた。

これまでの設置準備委員会開催日及び主な検討事項は、次のとおりである。

回	日付	主な検討項目
第1回	平成27年 5月27日（水）	・委員委嘱 ・新実施計画の概要 ・新高校設置準備委員会検討スケジュール ・めざす学校像
第2回	平成27年 7月31日（金）	・めざす学校像 ・学科構成
第3回	平成27年 10月26日（月）	・めざす学校像 ・学科構成 ・校地
第4回	平成28年 1月15日（金）	・学科構成（地元産業界代表意見聴取） ・校地
第5回	平成28年 5月20日（金）	・学科構成 ・校地 伊万里農林高等学校 校地見学
第6回	平成28年 8月30日（火）	・学科構成 ・校地 伊万里商業高等学校 校地見学
第7回	平成28年 11月1日（火）	・学科構成 ・校地
第8回	平成29年 1月26日（木）	・校地 ・校名

検討結果

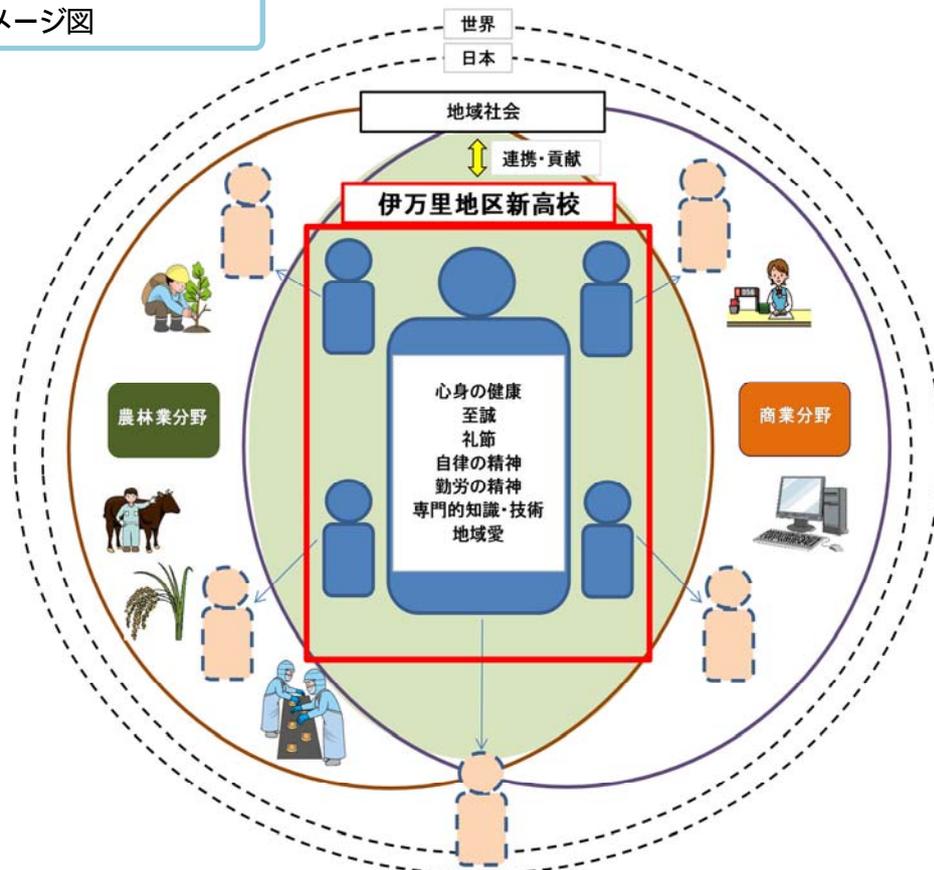
1 めざす学校像

心身ともに健康でたくましく、至誠と礼節を重んじ、自律と勤労の精神のもと、研鑽を積んだ専門的知識・技術と創造力で社会に貢献する人材を育成し、生徒一人ひとりが地域を愛し、夢に向かって挑戦していく学校。

「知 徳 体」のバランスと両校に共通する「たくましさ」「勤労の精神」を大切にしていく。

両校の歴史を感じさせる言葉である「至誠」「礼節」を大切にしていく。
地域を愛し、地域に愛される学校であることを大切にしていく。

めざす学校像から考えられる 新高校のイメージ図

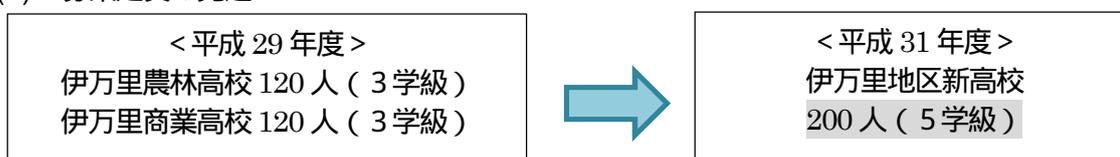


2 新高校の学科構成

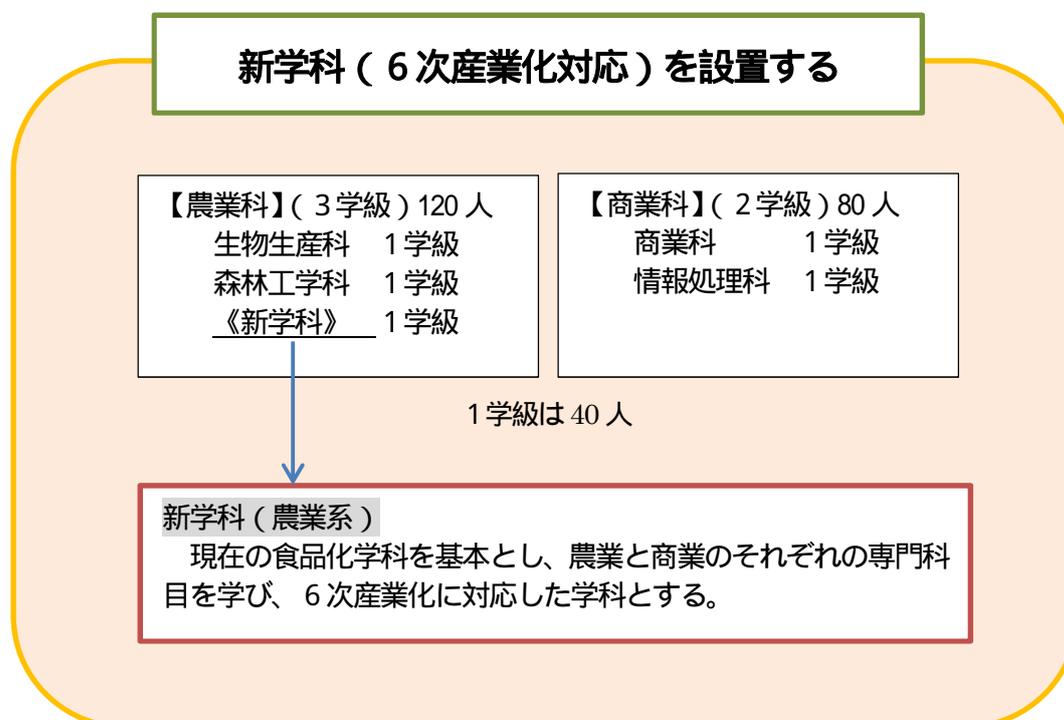
(1) 平成 29 年度現在の学科の状況

学校	大学科	小学科	募集定員 (人・学級)	備考
伊万里農林高校	農業科	生物生産科	40人・1学級	2年次より 「植物コース」「動物コース」
		食品化学科	40人・1学級	
		森林工学科	40人・1学級	2年次より 「土木コース」「林業コース」
伊万里商業高校	商業科	商業科	80人・2学級	
		情報処理科	40人・1学級	

(2) 募集定員の見込



(3) 新高校の学科構成

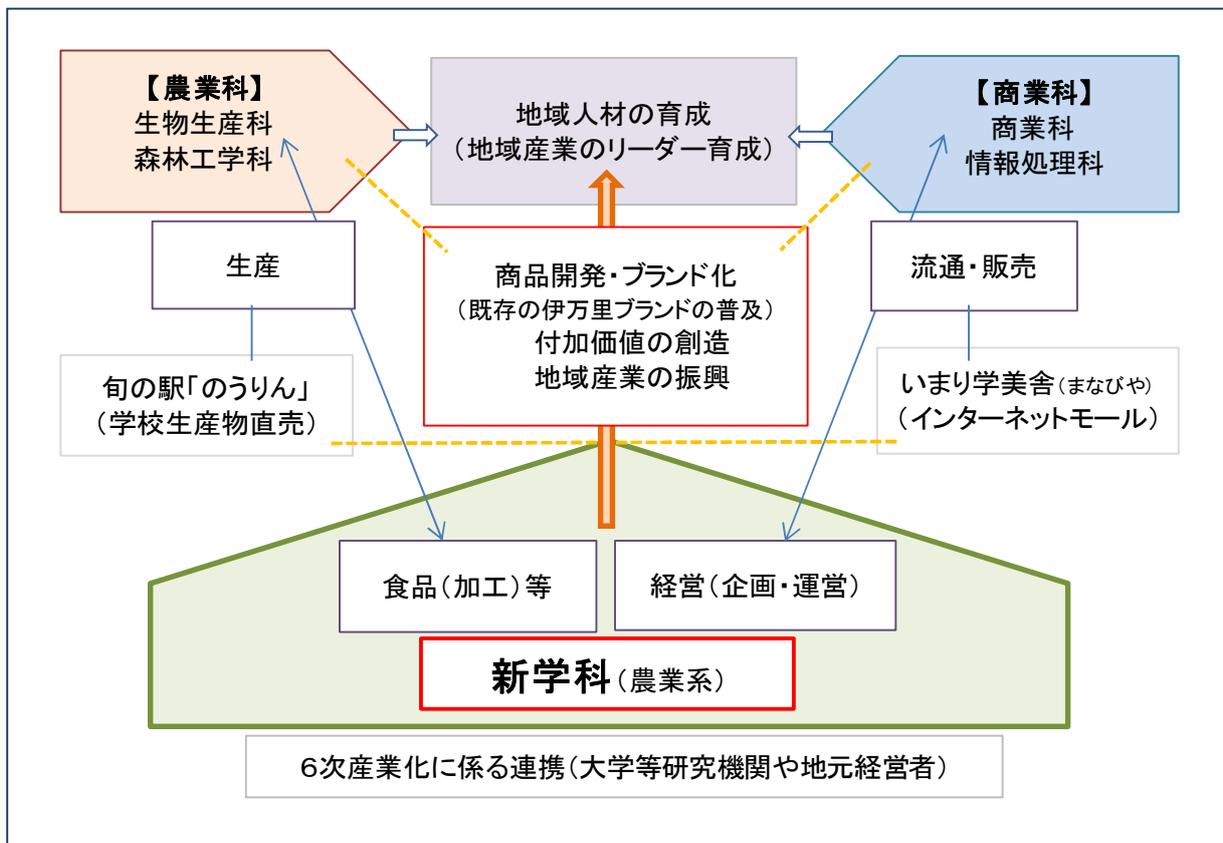


新学科のイメージ

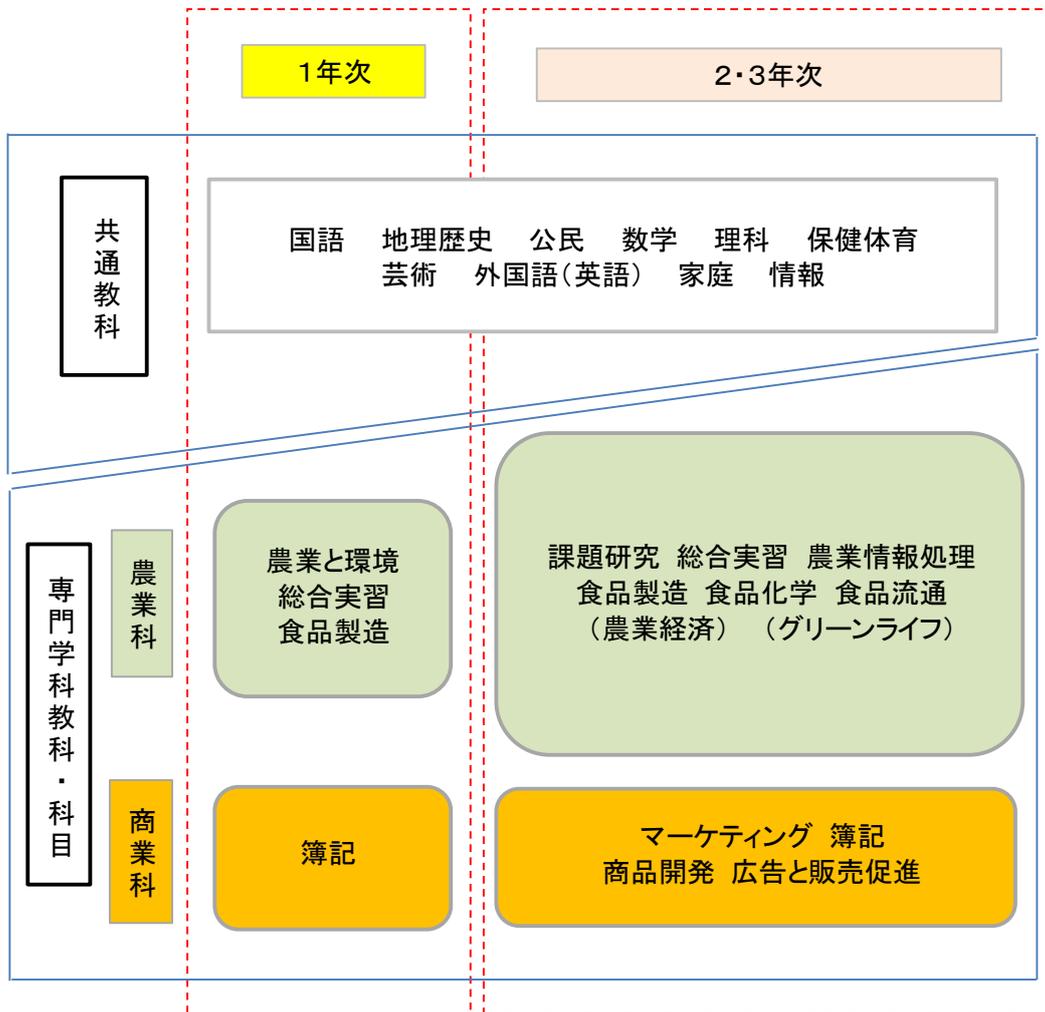
(1)新学科のコンセプト

時代の潮流である6次産業化に対応し、農産物の生産、加工、流通、販売を一貫してマネジメントするための基礎を学び、将来、伊万里市、佐賀県の産業界のリーダーとなるような人材を育成する学科。

新学科のイメージ図



(2)カリキュラム例のイメージ
 (現在の伊万里農林高校食品化学科をベースとした場合)



※情報は農業情報処理で代替
 ※農業科の科目は25単位以上が必要

3 新高校の校地

現在の伊万里農林高校の校地に農業科、伊万里商業高校の校地に商業科を配置する校舎制とし、それぞれを農林校舎（仮称）商業校舎（仮称）とする。

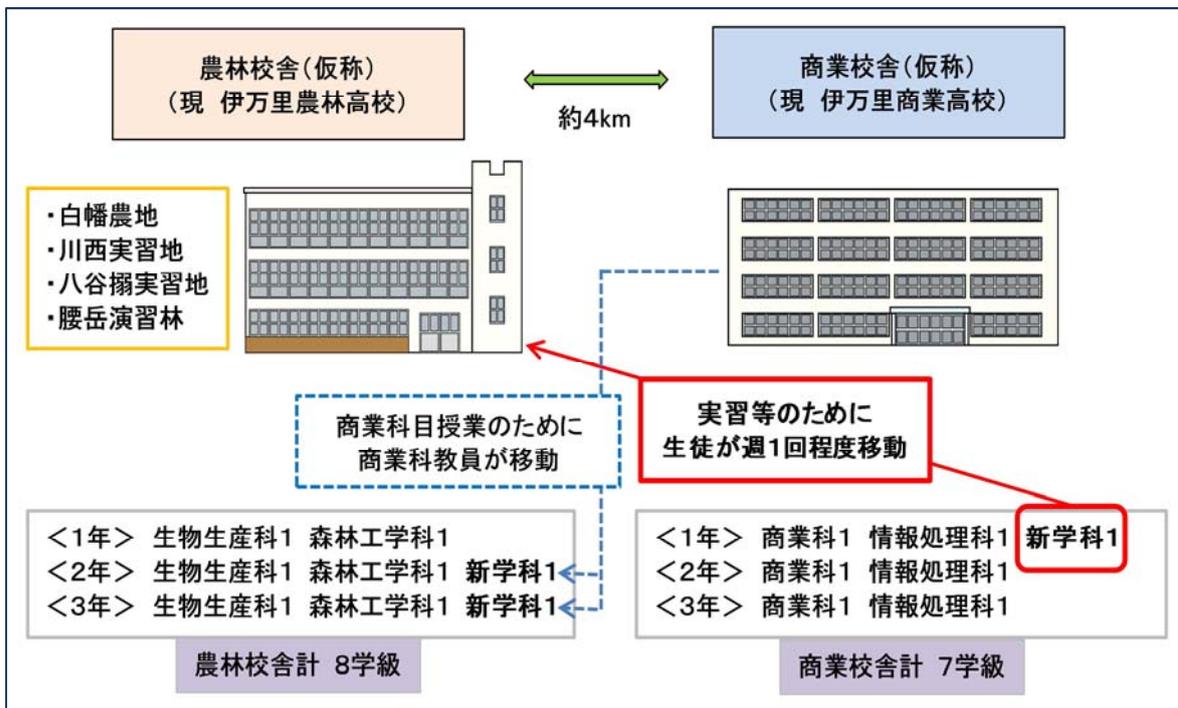
その際、新学科の生徒は1年次のみ商業校舎に配置する。

【理由】

農業科、商業科ともこれまでと同じ環境で専門性を維持した教育活動ができる。特に農業科では移動負担が生じず、農業実習での授業時間の確保ができる。

新学科（6次産業化対応）の教育効果をより高めるためには、新学科の生徒と商業科の生徒との交流や意見交換ができるような教育環境があることが望ましい。そのため、農業実習を伴う専門科目の単位数が少ない1年生を商業校舎に配置する。農林校舎での農業実習が週1回程度生じるが、生徒の移動負担を最小限にしなが、新学科としての教育の基礎を築くことができる。また、学校としての一体感の醸成も図ることができる。

【イメージ図】



熊本県立阿蘇中央高等学校

沿革

H22.4 阿蘇高等学校（普通科、商業科）と阿蘇清峰高等学校（生物科学科、林業・農業土木科、社会福祉科）が統合。

学科と募集定員

【計 280 人 7 学級 / 学年】 校舎間の距離約 3.1 km

校舎	学科（数値は H28 募集定員（人））
阿蘇校舎（旧阿蘇高校）	普通科 120 総合ビジネス科 40
阿蘇清峰校舎（旧阿蘇清峰高校）	農業食品科 40 グリーン環境科 40 社会福祉科 40

農業食品科...野菜、草花、畜産

校舎制の主な状況（H27.6.15 に学校訪問）

- ・ 生徒の移動を伴うのは、授業（総合選択制）合同行事、部活動等である。
- ・ 入学式、卒業式の際は、保護者用のバスも準備する。
- ・ 部活動のための移動は、生徒各自で行う。ほとんどの生徒が 30 分程度をかけて徒歩で移動している。移動ルートのほぼすべてに歩道が設置されている。特に交通指導等はしていない。
- ・ 合同で行っている行事は、各式典（入学式・卒業式・始業式・終業式・対面式）宿泊研修（1 年次）体育祭・文化祭、農業体験（田植え・稲刈り・収穫感謝祭）修学旅行、芸術鑑賞会、ロードレース大会、クラスマッチ（年 1 回）。
- ・ 式典関係はすべて阿蘇校舎で行う（阿蘇清峰校舎の生徒が移動）。

岡山県立真庭高等学校

沿革

H23.4 落合高等学校（普通科、看護科、専攻科）と久世高等学校（生産生物科、食品科学科）が統合。

学科と募集定員

【計 190 人 5 学級 / 学年】 校地間の距離約 6.4 km

校地（校舎）	学科（数値は H28 募集定員（人））
落合校地（旧落合高校）	普通科 80 看護科 40
久世校地（旧久世高校）	生物生産科 35 食品科学科 35

生物生産科...作物、野菜、草花、畜産

校舎制の主な状況（H27.11.19 に学校訪問）

- ・ 合同の行事は、入学式（落合校地）卒業式（落合校地）芸術鑑賞会（3 年に 1 度）学年交流会（各学年で行う）。＜各行事とも大型バスで移動＞
- ・ 授業での生徒の移動はなし。
- ・ 部活動に伴う生徒の移動は、中型バス（スクールバス）で週に 2 日間（月金）のみ送迎。
- ・ 両校舎を兼務しているのは理科、芸術の教諭。

沿革

H27.4 北佐久農業高等学校（栽培システム科、生物サイエンス科、食品サービス科）、臼田高等学校（普通科、グリーンライフ科、デザイン科）、岩村田高等学校工業科（機械科、電子機械科、電気科）が統合。

学科と募集定員

【計 280 人 7 学級 / 学年】 キャンパス間の距離約 9.6 km

キャンパス（校舎）	学科		学級数	H28 募集定員（人）
浅間キャンパス（旧北佐久農業高校）	農業科	食品マネジメント科	3 学級	120 人 （くくり募集）
		生物サービス科		
		食農クリエイト科		
	工業科	機械システム科	1 学級	40 人
		電気情報科	1 学級	40 人
臼田キャンパス（旧臼田高校）	創造実践科（総合学科）		2 学級	80 人

農業科...作物、野菜、草花、畜産

校舎制の主な状況（H27.12.2 に学校訪問）

- ・ 一つの高校としての一体感を醸成していくことには配慮している。そのために、そのキャンパス、その学科でしかできないことと共同でできることの線引きをどこで行っていけばいいのかを現在模索中である。例えばキャンパス間ウォーク（両キャンパスを折り返して歩く）やクラスマッチ（各学年でどちらかのキャンパスに集まって行う）という行事は合同でやるが、文化祭はキャンパス別に行うということである。文化祭の別開催は「地域に開かれた学校」ということを考えた場合、1つのキャンパスのみの開催はできないだろうという発想である。
- ・ 1つのキャンパスで一斉に開催する行事については現地集合である。
- ・ 入学式、卒業式は浅間キャンパスで行っている（卒業式は予定）。
- ・ 生徒の授業でのキャンパス間移動はない。
- ・ 両キャンパスの兼務者は理科助手、音楽、美術、書道、農業の5人である。校務分掌がある方を本所属のキャンパスとしている。
- ・ 授業であれば産振用のマイクロバスを利用できる。通学用のバスはない。
- ・ 部活動について、巡回バス用の予算はない。平日は週2回（火、金）にPTAが持つマイクロバスを運行している。

沿革

H24.4 阿波農業高校（農業科学科、園芸科学科）と鴨島商業高校（商業科、経営情報科）が統合。

学科と募集定員

【計 130 人 5 学級 / 学年】

大学科	小学科（数値はH28 募集定員（人））	
農業科	農業科学科 25	生物活用科 20
商業科	会計ビジネス科 25	情報ビジネス科 30 食ビジネス科 30

農業科...作物、野菜、果樹、草花

校地の状況

どなり
【土成農場までの距離 約 5.6 km】

- ・本校地（旧鴨島商業高校）
- ・土成農場（旧阿波農業高校）



学校の主な状況（H28.10.11 に学校訪問）

学科併置（農業科、商業科）について

- ・ 農業科と商業科の連携で農業が苦手とする商品管理やマーケティング面を補うことができ、本校のオンリーワンブランドが開発できている。
- ・ 商業科の指導ではビジネスでの礼儀を重んじる面があるが、農業科でもそれを取り入れている。両科それぞれが大切にしているものをいかに融合していくかということである。

6次産業化への対応<食ビジネス科>について

- ・ 6次産業化への対応（食ビジネス科）は、統合するメリットを考えた結果である。
- ・ 食ビジネス科は実習棟を持っており、スクールカフェ吉野川とアグリ吉野川（農産物販売）を年間15回行っている。地域食材調達、調理、店舗経営を身に付けることを目的としている。
- ・ 進路について、就職では他の商業科の学科（会計、情報）と比較し、農業関連分野（食関係）が多く、進学では四年制大学で管理栄養士を目指す生徒もいる。

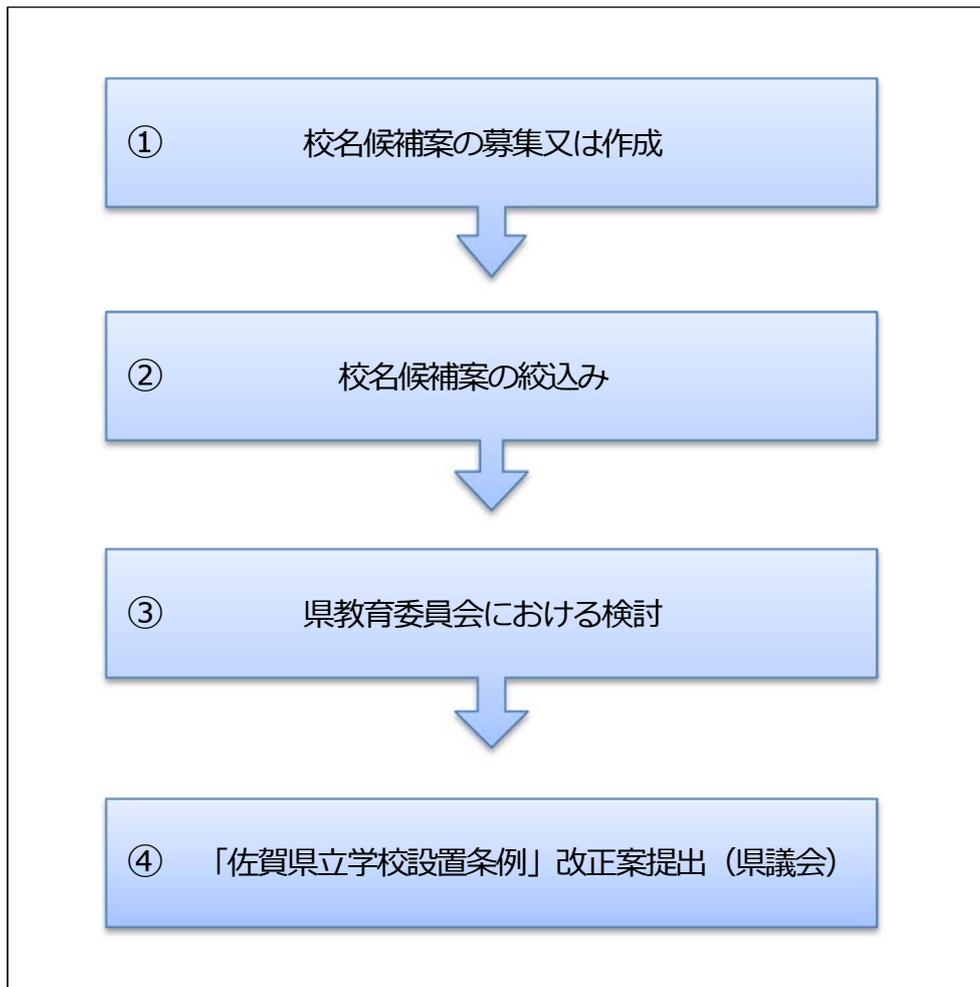
土成農場について

- ・ バス移動は約15分（約5.6km）、1日約2往復、
- ・ 移動は1限目の前（朝HR後）、2・3限目の間（休み時間20分）、5限目の前（昼休み）
- ・ 教職員の土成農場本務者は5人で、朝礼は本校舎で行い、その後土成農場へ移動している。
- ・ 農場管理については人手が足りず、農場本務では担任ができない状況である。
- ・ 耐震工事が完了した実習関係の施設のみ利用（座学も行えるため、天候が悪い時もバス移動は行う）。それ以外（教室棟、グラウンド、体育館など）は使用できない。
- ・ 移動があるため、実習の時間が確保できていない。毎日が短縮授業と同じである。
- ・ 再編にあたり、農場に通うことになったので、動物の飼育や管理ができないため、畜産科は廃止した。

平成29年度以降のスケジュール(案)

回	時期	主な検討項目
平成29年度 第9回	H29年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度及び28年度報告、平成29年度以降のスケジュール ・新高校の校名(検討方法) ・新校章・新校歌・新制服(検討方法)
第10回	H29年8月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容に係る検討報告(教育課程、部活動、学校行事、校務分掌等) ・新高校の校名(進捗状況報告) ・新学科の教育内容 ・校舎制
第11回	H29年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容に係る検討報告(教育課程、部活動、学校行事、校務分掌等) ・新高校の校名(校名案) ・新学科の教育内容 ・校舎制
第12回	H30年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新高校再編整備実施計画(案)検討 ・新校章・新校歌・新制服(進捗状況報告)
	H30年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・2月議会(条例改正案)
	H30年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・新高校再編整備実施計画
平成30年度	H30年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動 等 <p>進捗状況報告のための設置準備委員会を開校までに1～2回実施</p>
平成31年度	<u>H31年4月</u>	<u>開校</u>

1 校名制定までの流れ（概略）



2 過去の県立学校校名検討事例

開校年度	決定した学校名	校名検討の理由
H8	神埼清明高校	学科改編（農業科 総合学科）
H14	多久高校	学科改編（工業科 総合学科）
H15	致遠館中学校	中高一貫の導入（県立中学校の開校）
H17	唐津青翔高校	高校再編（唐津北高校・東松浦高校の統合）
H18	唐津東中学校	中高一貫の導入（県立中学校の開校）
H19	香楠中学校	中高一貫の導入（県立中学校の開校）
H19	武雄高校・武雄青陵中学校	高校再編、中高一貫の導入（県立中学校の開校）
H19	うれしの特別支援学校	特別支援学校の新設
H30 予定	白石高校	高校再編（白石高校・杵島商業高校の統合）
H30 予定	鹿島高校	高校再編（鹿島高校・鹿島実業高校の統合）
H30 予定	嬉野高校	高校再編（塩田工業高校・嬉野高校の統合）

（1）神埼清明高校 <平成8年：(旧)神埼農業高校>

校名候補案	当該校職員より募集（H7.5.29～6.10 26案の応募）
校名候補の絞り込み	プロジェクト委員会（校内） 10案に絞り込み（H7.6.20） 校内全職員での検討 5～6案に絞り込み（H7.6.22） 当該校より県教委へ校名案の要望書提出（H7.9.5）
県教委における検討	教育庁内新校名案検討（H7.10.18） 11月定例教育委員会（H7.11.20）
条例改正案提出	11月県議会

（2）唐津青翔高校 <平成17年：(旧)唐津北高校、東松浦高校>

校名候補案	公募（H16.4.5～4.23 509通の応募）
校名候補の絞り込み	校名候補検討会 16案に絞り込み（H16.5.6） （構成：関係市町首長・教育長、地元中学校校長・PTA会長、再編対象校校長及び職員代表、教育企画室長） 検討委員に地元関係者4名を加え、アンケート調査を実施 有識者への意見聴取 6案に絞り込み
県教委における検討	県立高校再編整備推進本部会議（H16.5.14） 5月定例教育委員会（H16.5.27）
条例改正案提出	6月県議会

（3）武雄高校・武雄青陵中学校 <平成19年：(旧)武雄高校、武雄青陵高校>

校名候補案	武雄高校職員により作成（H18.2～3 25案の作成）
校名候補の絞り込み	第1回校名候補検討会 25案の説明・意見聴取（H18.3.28） （構成：武雄市教育長、地元小中学校校長・PTA会長、武雄高及び武雄青陵高同窓会長・振興会長、武雄高及び武雄青陵高校長、教育企画室長） 有識者への意見聴取 第2回校名候補検討会 14案に絞り込み（H18.4.14）
県教委における検討	5月定例教育委員会勉強会（H18.5.24） 6月定例教育委員会（H18.6.12）
条例改正案提出	6月県議会

(4) 白石高校 <平成30年(予定):(現)白石高校、杵島商業高校>

校名候補案	公募(H28.7.7~8.15 873通の応募)
校名候補の絞り込み	校名候補検討会 第1回(H28.8.29) 第2回(H28.10.3) 第3回(H28.10.26) (4案に絞り込み) (構成:大町町生活環境課長、白石町副町長、大町町・白石町・江北町・武雄市各教育長、地元中学校校長、再編対象校同窓会代表・PTA代表、再編対象校校長・教頭、県立高校再編整備推進室長・教育企画監) 有識者への意見聴取(第2回校名検討委員会後に実施)
県教委における検討	県立高校再編整備推進本部会議(H29.1.30) 2月定例教育委員会(H29.2.6)
条例改正案提出	2月県議会

(5) 鹿島高校 <平成30年(予定):(現)鹿島高校、鹿島実業高校>

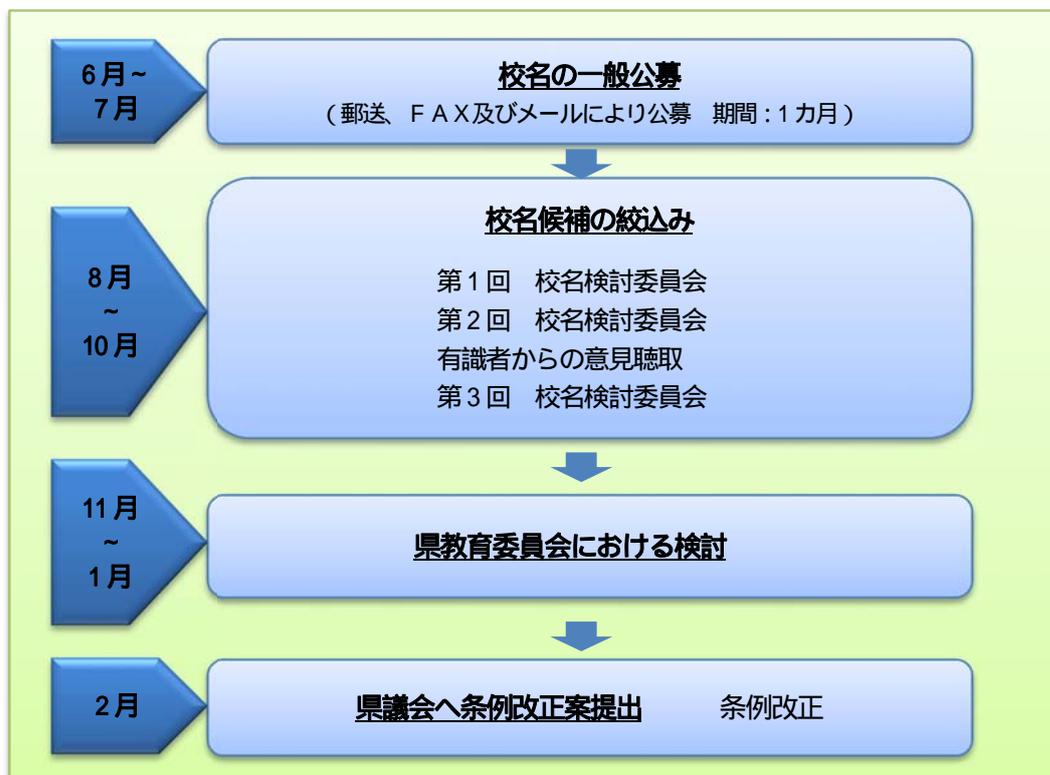
校名候補案	公募(H28.7.7~8.15 410通の応募)
校名候補の絞り込み	校名候補検討会 第1回(H28.8.30) 第2回(H28.10.17) 第3回(H28.11.1) (3案に絞り込み) (構成:鹿島市総務部長、鹿島市・嬉野市・白石町・太良町各教育長、地元中学校校長、再編対象校同窓会代表・PTA代表、再編対象校校長・教頭、県立高校再編整備推進室長・教育企画監) 有識者への意見聴取(第2回校名検討委員会後に実施)
県教委における検討	県立高校再編整備推進本部会議(H29.1.30) 2月定例教育委員会(H29.2.6)
条例改正案提出	2月県議会

(6) 嬉野高校 <平成30年(予定):(現)塩田工業高校、嬉野高校>

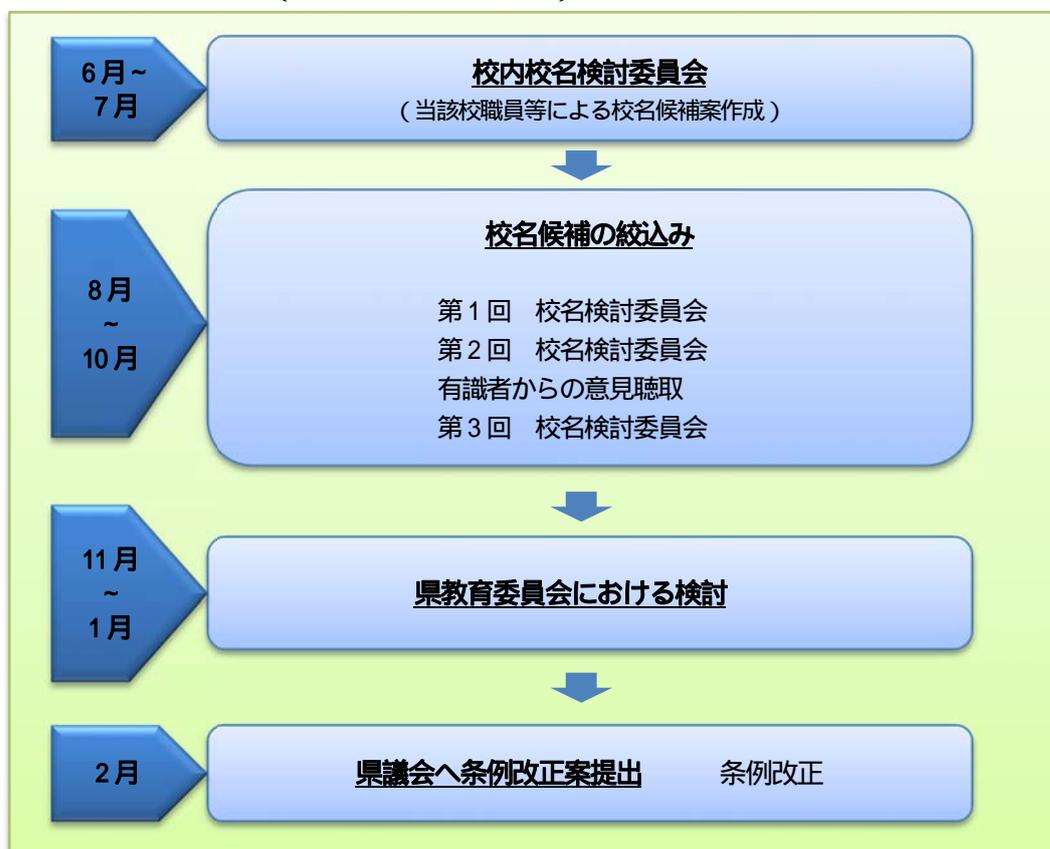
校名候補案	公募(H28.7.7~8.15 709通の応募)
校名候補の絞り込み	校名候補検討会 第1回(H28.8.29) 第2回(H28.10.5) 第3回(H28.11.2) (5案に絞り込み) (構成:嬉野市副市長、嬉野市・鹿島市・武雄市各教育長、地元中学校校長、再編対象校同窓会代表・PTA代表、再編対象校校長・教頭、県立高校再編整備推進室長・教育企画監) 有識者への意見聴取(第2回校名検討委員会後に実施)
県教委における検討	県立高校再編整備推進本部会議(H29.1.30) 2月定例教育委員会(H29.2.6)
条例改正案提出	2月県議会

3 検討方法（案）

【A案】 校名候補案の一般公募の場合



【B案】 当該校の職員（校内校名検討委員会等）による原案作成の場合



4 校名検討における基本的な考え方（案）

目指す学校像や、学校の歴史的あるいは地理的背景などを考慮した名称とする。
比較的平易に読め、親しみやすい名称とする。
県内外の学校と紛らわしくない名称とする。

5 検討組織

< 校名検討委員会委員構成（案） >

No	委員構成（案）
1	関係校校長（2人）
2	伊万里市教育長
3	伊万里市政策経営部長
4	関係校同窓会代表（2人）
5	関係校PTA代表（2人）
6	地元中学校校長（1人）
7	県教育委員会代表（2人）

現在の新高校設置準備委員会の委員を基本とし、県教委からは代表2名の参加（県立高校再編整備推進室長、同教育企画監）とする。

参考資料 1

(1) 校名検討委員会（校名候補検討会）委員構成例

唐津青翔高校（7人）

地元関係者	学校、県教委
鎮西町長	有浦中学校校長
呼子町教育長	唐津北高校校長
切木中学校 PTA 会長	東松浦高校校長
	教育企画室長

武雄高校・武雄青陵中学校（12人）

地元関係者	同窓会、PTA	学校、県教委
武雄市教育長	武雄高校同窓会長	嬉野中学校校長
有田中学校 PTA 会長	武雄青陵高校同窓会長	北方小学校校長
武雄小学校育友会会長	武雄高校 PTA 会長	武雄高等学校校長
	武雄青陵高校 PTA 会長	武雄青陵高等学校校長
		教育企画室長

【平成30年度開校予定】

白石高校（16人）

地元関係者	同窓会、PTA	学校、県教委
大町町教育長	白石高等学校同窓会代表	白石町立白石中学校校長
大町町生活環境課長	杵島商業高等学校同窓会代表	武雄市立川登中学校校長
白石町教育長	白石高等学校 PTA 代表	白石高等学校校長
白石町副町長	杵島商業高等学校 PTA 代表	杵島商業高等学校校長
武雄市教育長		県立高校再編整備推進室長
江北町教育長		県立高校再編整備推進室教育企画監

鹿島高校（15人）

地元関係者	同窓会、PTA	学校、県教委
鹿島市教育長	鹿島高等学校同窓会代表	西部中学校校長
鹿島市総務部長	鹿島実業高等学校同窓会代表	東部中学校校長
嬉野市教育長	鹿島高等学校 PTA 代表	鹿島高等学校校長
白石町教育長	鹿島実業高等学校 PTA 代表	鹿島実業高等学校校長
太良町教育長		県立高校再編整備推進室長
		県立高校再編整備推進室教育企画監

嬉野高校（14人）

地元関係者	同窓会、PTA	学校、県教委
嬉野市教育長	塩田工業高等学校同窓会代表	塩田中学校校長
嬉野市副市長	嬉野高等学校同窓会代表	嬉野中学校校長
武雄市教育長	塩田工業高等学校 PTA 代表	塩田工業高等学校校長
鹿島市教育長	嬉野高等学校 PTA 代表	嬉野高等学校校長
		県立高校再編整備推進室長
		県立高校再編整備推進室教育企画監

(2) 校内校名検討委員会委員構成(過去の例)

武雄高校・武雄青陵中学校

委員	
武雄高校校長	武雄青陵高校校長
武雄高校教頭	武雄青陵高校教頭
武雄高校事務長	武雄青陵高校事務長
武雄高校教務主任	武雄青陵高校教務主任
武雄高校開校準備担当者	武雄青陵高校開校準備担当者
武雄高校国語科教諭	武雄青陵高校国語科教諭
武雄高校社会科教諭	武雄青陵高校社会科教諭

唐津東中学校

委員
唐津東高校校長
唐津東高校教頭
唐津東高校事務長
唐津東高校教務主任
唐津東高校中高一貫教育推進担当
同窓会代表(1人)

(3) 有識者への意見聴取(過去の例)

唐津青翔高校(4人)

久留米大学客員教授、元唐津北高校校長、元唐津市立図書館長、元呼子町教育長

武雄高校・武雄青陵中学校(6人)

元武雄市教育長、元武雄市教育委委員、東洋館社長、郷土史家、手塚商店代表、大村屋別館代表

香楠中学校(4人)

元中央大学学長、作家・脚本家、郷土史家、郷土史家

【平成30年度開校予定】

白石高校(5人)

白石町教育委員会文化財担当、元有明中学校長、白石町教育委員、元大町町教育長、佐賀近代史研究会会員

鹿島高校(5人)

田澤記念館長、鹿島市教育委員会生涯学習課職員、税理士、鹿島市体育協会職員、鹿島市民立生涯学習・文化振興財団事務局長

嬉野高校(3人)

民俗学専門家、郷土史家(元嬉野市職員)、郷土史家(元県立高校校長)

参考資料2

佐賀県立高等学校 校名一覧

番号	学校名	校名由来	番号	学校名	校名由来
1	鳥栖	所在地名	19	唐津南	所在地名＋方角
2	三養基	所在地名	20	伊万里農林	所在地名＋専門校種名
3	神埼	所在地名	21	佐賀農業	所在地名＋専門校種名
4	佐賀東	所在地名＋方角	22	鳥栖工業	所在地名＋専門校種名
5	佐賀西	所在地名＋方角	23	佐賀工業	所在地名＋専門校種名
6	佐賀北	所在地名＋方角	24	唐津工業	所在地名＋専門校種名
7	致遠館	※1	25	有田工業	所在地名＋専門校種名
8	小城	所在地名	26	塩田工業	所在地名＋専門校種名
9	唐津東	所在地名＋方角	27	鳥栖商業	所在地名＋専門校種名
10	唐津西	所在地名＋方角	28	佐賀商業	所在地名＋専門校種名
11	厳木	所在地名	29	唐津商業	所在地名＋専門校種名
12	伊万里	所在地名	30	伊万里商業	所在地名＋専門校種名
13	武雄	所在地名	31	杵島商業	所在地名＋専門校種名
14	白石	所在地名	32	鹿島実業	所在地名＋専門校種名
15	鹿島	所在地名	33	神埼清明	※3
16	太良	所在地名	34	多久	※4
17	牛津	所在地名	35	唐津青翔	※5
18	高志館	※2	36	嬉野	※6

※ 過去の県立高校の校名選定の理由等

番号	学校名	旧校名	校名変更の理由	校名選定の理由
※1	致遠館	—	新設	①佐賀藩校「致遠館」にちなむ。(校名一般公募) ②「志を遠大にする」、「遠方の人々を導く」、「遠くへ行く」等を意味する。
※2	高志館	佐賀農芸	学科改編(農業科と国際交流科の併置)	①校訓「高志潔心」よりとる。 ②高い志を持って学び、活躍してほしいという期待を込める。 ③世界に通用する人材を育成する。
※3	神埼清明	神埼農業	学科改編(総合学科の設置)	①総合学科で学ぶ生徒の清新さをイメージすることができ、新たな校風を醸成する。 ②校歌の一節「清明すでに仰ぐ」より引用。 ③「清明節」の語感から若さと希望を表している。
※4	多久	多久工業	学科改編(総合学科の設置)	①伝統を踏まえ、新たな校風の樹立をはかる。 ②歴史と文化を誇る学究の里「多久」の地名を残す。 ③全国に「多久」の校名は無く、地域に存在する唯一の高校。
※5	唐津青翔	東松浦 唐津北	高校再編(東松浦と唐津北の統合)	①「唐津」を付けることで、唐津地区の学校であることを明確にする。 ②「青」は玄界灘の海を表し、「翔」は未来に羽ばたく若者のイメージを表す。
※6	嬉野	嬉野商業	学科改編(総合学科の設置)	①開校当時の校名をそのまま生かし、原点復帰して新鮮なイメージを与える。 ②地域存在する唯一の学校であること。 ③全国に「嬉野」の校名が無い。

【平成30年度開校予定】

新高校名	校名選定の理由
白石高校	<p>「白石」という校名は、100年近い歴史があり、地域にとって馴染みがある名称である。また、杵島商業高等学校の前身が白石高等学校の分校であった時期もある。こうしたことから、新高校が両校の良き伝統を受け継ぎつつ、地域に親しまれる学校となるよう、校名に「白石」という名称を用いた。</p>
鹿島高校	<p>「鹿島」という校名は、旧制中学校、戦後の新制高校時代を通じて使われてきており、鹿島実業高等学校の前身が鹿島高等学校に統合されていた時期もある。また、新高校は鹿島市唯一の高校となる。こうしたことから、新高校が両校の良き伝統を受け継ぎつつ、地域に親しまれる学校となるよう、校名に「鹿島」という名称を用いた。</p>
嬉野高校	<p>「嬉野」という名称は、温泉やお茶など全国的にも知名度があり、多くの人に親しまれている名称である。また、新高校は嬉野市唯一の高校となる。こうしたことから、新高校が塩田工業高等学校と嬉野高等学校の良き伝統を受け継ぎつつ、地域に親しまれる学校となるよう、校名に「嬉野」という名称を用いた。</p>

参考資料3 近年の他県における校名検討の例

(1) 千葉県立松戸向陽高等学校

新高校名	千葉県立松戸向陽高等学校（全日制）
学校設置年	平成23年4月開校 松戸秋山高等学校（普通科）と松戸矢切高等学校（普通科、福祉教養科）の再編統合
校名案の作成	公募（期間：H21.6.1～7.31）
校名候補の絞り込み	統合準備室による校名候補案の絞り込み 校名検討委員会による校名候補案の絞り込み 県教育委員会で最終案確定（H21.12）
校名選定の理由	太陽に向かって大輪の花を咲かせる向日葵（ひまわり）のように、常に周りに温かさをもたらすことのできる福祉マインドを持った生徒を育む学校になって欲しいとの願いを込め、位置を示す「松戸」の後ろに「向陽」とした。

(2) 長野県飯田 O I D E 長姫高等学校

新高校名	長野県飯田 O I D E 長姫高等学校（全日制）
学校設置年	平成25年4月開校 飯田工業高等学校（工業科）と飯田長姫高等学校（工業科、商業科）の再編統合
校名案の作成	新高校名の考え方についてパブリックコメント （期間：H23.2.25～3.25 応募件数：1566件）
校名候補の絞り込み	校名検討小委員会
校名選定の理由	統合する両校の所在地「飯田」に、飯田工業高校の建学の精神である「O I D E」（Originality（独創）、Imagination（想像）、Device（工夫）、Effort（努力））と飯田長姫高校の「長姫」を併記することで両校の伝統を継承する。 校名にアルファベットを採用することで、県内初の総合技術高校で学ぶ生徒が、あらゆる分野において国際化が進展する我が国で、グローバルな視点を持って今後の産業経済の発展に寄与できる人材に育ててほしいとの願いを込めて命名。

(3) 川口市立高等学校（埼玉県）

新高校名	川口市立高等学校（全日制）
学校設置年	平成30年4月開校 川口総合高等学校（総合学科）川口高等学校（普通科、商業科） 県陽高等学校（普通科）の再編統合
校名案の作成	公募（期間：H27.8.1～9.11 応募件数：478件） 【校名案公募の観点】 平成30年4月に開校を予定している新市立高等学校について、市民から誇りと憧れをもたれるような魅力ある学校とするため、「校名」および「校名の理由」の公募を実施。
校名候補の絞り込み	新市立高校開設準備委員会（学識経験者、学校関係者等）で意見聴取 新市立高校開設検討委員会（市関係部局の部課長等）で校名案選定
校名選定の理由	市内で唯一の市立高等学校となり、後世まで残る校名である 伝統ある市立3校のこれまでの実績や成果を等しく継承できる校名である 川口の名を冠して、常にトップを目指す学校のイメージを持った校名である シンプルで親しみやすい校名である 県内、県外の人にもわかりやすい校名である

(参考)

他県での校名決定の状況

【検討委員会の設置なし・公募なし】

事例A：はじめから県教育委員会事務局で校名案を決定 → 校名決定

事例B：関係者の話し合いで校名案を決定 → 校名決定

【検討委員会の設置なし・公募実施】

事例C：公募実施（中高生） → 県教育委員会事務局で絞り込む（複数）
→ 公募実施（一般） → 県教育委員会事務局で絞り込む（複数） → 校名決定

事例D：公募実施 → 学校関係者に意見を聴く → 県教育委員会事務局で校名候補を絞り込む（複数） → 校名決定

事例E：公募実施 → 学校関係者のみで校名候補を絞り込む（一つ） → 校名決定

【検討委員会の設置あり・公募実施】

事例F：公募実施 → 学校関係者のみで校名候補を絞り込む（10案程度）
→ 検討委員会で校名候補を絞り込む（複数） → 校名決定

事例G：公募実施 → 検討委員会で校名候補を絞り込む（複数） → 校名決定

事例H：公募実施 → 検討委員会で校名候補を絞り込む（複数）
→ 県教育委員会事務局で校名候補を絞り込む（複数） → 校名決定

事例I：公募実施 → 検討委員会で校名候補を絞り込み（複数）
→ 児童・生徒アンケート → 検討委員会で校名候補を絞り込み（複数）
→ 県教育委員会事務局で校名候補を絞り込む（一つ） → 校名決定

(単位：校)

校名決定の方法		統合校した年度		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度以降 (予定)	合計		
		【事例A】	【事例B】					【事例C】	【事例D】	【事例E】
検討委員 会の設置 なし	公募 なし	【事例A】		2				2	5	10
		【事例B】			1		2	3		
	公募 実施	【事例C】			1			1	5	
		【事例D】			1	2		3		
		【事例E】					1	1		
検討委員 会の設置 あり	公募 実施	【事例F】		1				1	24	
		【事例G】		6	7	6	2	21		
		【事例H】				1		1		
		【事例I】				1		1		
合計				9	10	10	5	34		

近年の統合校の校名について

平成 28 年度以降（予定）の統合（一部）

※例	都道府県	統合後の校名	統合対象校	委員会設置の有無	公募実施の有無
G	滋賀県	彦根翔西館高校	彦根西高校、彦根翔陽高校	設置	実施
G	滋賀県	長浜北高校	長浜高校、長浜北高校	設置	実施
E	京都市	京都工学院高校	洛陽工業高校、伏見工業高校 ※新校地	なし	実施
B	香川県	観音寺総合高校	観音寺中央高校、三豊工業高校	なし	なし（関係者の話し合い）
B	香川県	小豆島中央高校	土庄高校、小豆島高校 ※新校地	なし	なし（関係者の話し合い）

平成 27 年 4 月統合

※例	都道府県	統合後の校名	統合対象校	委員会設置の有無	公募実施の有無
I	宮城県	登米総合産業高校	上沼高校、米山高校、米谷工業高校、登米高校（商業科）	設置	実施
H	千葉県	大原高校	大原高校、岬高校、勝浦若潮高校	設置	実施
D	長野県	佐久平総合技術高校	北佐久農業高校、白田高校、岩村田高校（工業科） ※学科別に校地	なし	実施
D	長野県	須坂創成高校	須坂園芸高校、須坂商業高校	なし	実施
G	静岡県	浜松湖北高校	引佐高校、気賀高校、三ヶ日高校	設置	実施
G	熊本県	岱志高校	荒尾高校、南関高校	設置	実施
G	熊本県	牛深高校	牛深高校、河浦高校（普通科）	設置	実施
G	熊本県	天草拓心高校	峯明高校、峯洋高校、河浦高校（園芸科）	設置	実施
G	大分県	玖珠美山高校	玖珠農業高校、森高校	設置	実施
G	鹿児島県	串良商業高校	有明高校、串良商業高校	設置	実施

平成 26 年 4 月統合

※例	都道府県	統合後の校名	統合対象校	委員会設置の有無	公募実施の有無
B	秋田県	角館高校	角館高校、角館南高校	なし	なし（関係者の話し合い）
G	山形県	村山産業高校	村山農業高校、東根工業高校	設置	実施
G	福井県	坂井高校	春江工業高校、坂井農業高校	設置	実施
C	山梨県	都留興譲館高校	桂高校、谷村工業高校	なし	実施
D	長野県	飯山高校	飯山高校、飯山北高校	なし	なし（第1次統合の際に校名は決定済み。なお第1次統合時は公募実施）
G	静岡県	清流館高校	大井川高校、吉田高校	設置	実施
G	静岡県	天竜高校	春野高校、二俣高校、天竜林業高校	設置	実施
G	徳島県	つるぎ高校	貞光工業高校、美馬商業高校	設置	実施
G	大分県	佐伯豊南高校	佐伯鶴岡高校、佐伯豊南高校	設置	実施
G	鹿児島県	曾於高校	財部高校、末吉高校、岩川高校	設置	実施

平成 25 年 4 月統合

※例	都道府県	統合後の校名	統合対象校	委員会設置の有無	公募実施の有無
G	北海道	札幌芙蓉高校	札幌篠路高校、札幌拓北高校	設置	実施
F	秋田県	能代松陽高校	能代北高校、能代商業高校	設置	実施
A	埼玉県	豊岡高校	豊岡高校、入間高校	なし	なし（県教委としてはじめから決定）
G	埼玉県	ふじみ野高校	福岡高校、大井高校	設置	実施
G	埼玉県	幸手桜高校	幸手高校、幸手商業高校	設置	実施
A	埼玉県	本庄高校	本庄高校、本庄北高校	なし	なし（県教委としてはじめから決定）
G	福井県	若狭高校	若狭高校、小浜水産高校	設置	実施
G	山口県	美祢青嶺高校	青嶺高校、美祢高校	設置	実施
G	大分県	日出総合高校	日出暁谷高校、山香農業高校	設置	実施

※統合対象校の枠内のアンダーラインは、統合校の校地、波線はキャンパス校を示している。

※平成 28 年度以降（予定）の統合（一部）：情報提供や情報収集した県・市立の全日制課程の統合

※平成 25～27 年 4 月統合

・対象：県立学校同士の全日制課程の統合

・参考：「公立高等学校の再編整備計画等に係る調査」平成 25 年 6 月実施 青森県教育委員会

「全国高等学校 新設・校名変更・募集停止・学科再編等情報」(株)さんぼう教育総合研究センター

県立高校再編整備に伴う校歌・校章・制服の検討について

検討の方法

過去のいくつかの事例を見ると、校章のデザインや校歌の作詞家・作曲家の選定等、各校で組織した校内の諸検討委員会に委ねられている部分が多い。

【参考】唐津青翔高校設置に係る諸検討の経緯

制服

制服検討委員会のメンバー

- ・ 東松高（校長、教頭、事務長他 11 名）
- ・ 唐北高（校長、教頭、事務長他 6 名）

制服の基本コンセプト

- ・ 新しく躍進を開始するのにふさわしい制服
- ・ 校名（唐津青翔）のイメージにふさわしい制服
- ・ 清潔感がある、活動的である、シンプルである等

制定までの経緯

- ・ H16.10.9～10.25 業者の試作品及びサンプル搬入
- ・ H16.10.9～11.5 アンケートの実施
（東松高・唐北高職員・生徒、東松高保護者、近隣中学校職員・生徒・保護者）
- ・ H16.11.1 制服検討委員会（1 回目）：女子冬服の選考対象を選定
- ・ H16.11.2 制服検討委員会（2 回目）：各種制服候補の絞り込み
- ・ H16.11.4 制服検討委員会（3 回目）：さらなる絞り込み
- ・ H16.11.8 制服候補の展示 生徒・職員の意見を聞く
制服検討委員会（4 回目）：最終候補案決定
- ・ H16.11.9 唐津制服組合と協議
- ・ H16.11.10 唐津制服組合と協議 決定

校章 … 美術担当教員が作成（1 月上旬完成予定）

校歌（制定までの経緯）

- ・ H17.8.31 第 1 回校歌制定委員会（東松高）：作詞、作曲を依頼する人物の推薦を委員に依頼
- ・ H17.9.21 第 2 回校歌制定委員会（東松高）：作詞を脇山正大氏（東松高元教頭）に依頼決定
体調を崩されているため、佐藤友則氏を推薦
- ・ H17.10.22 第 3 回校歌制定委員会（東松高）：作詞を佐藤友則氏（清和高元教頭）に依頼決定
- ・ H17.11.9 第 4 回校歌制定委員会（東松高）：作曲を橋本正昭氏（佐賀大助教授）に依頼決定
- ・ H18.1.17 作詞完成
- ・ H18.3.25 作曲完成